

急性期脳出血患者における拡散強調画像陽性脳虚血病変に関する研究

研究責任者 所属 脳神経内科 職名 医長
氏名 大木 宏一 

このたび当院では、当院で入院加療された脳出血の方の診療情報を用いた下記の研究を実施いたしますので、ご協力をお願いいたします。この研究を実施することによる受診者の方への新たな負担は一切ありません。また受診者の方のプライバシー保護については最善を尽くします。本研究への協力を望まれない受診者の方は、その旨、研究責任者までご連絡をお願いします。また本研究の研究計画書を御希望の方は、それを入手又は閲覧することも可能です。

1 対象となる方

2016 年 1 月 1 日から 2020 年 12 月 31 日までの期間に、当院（東京都済生会中央病院）に脳出血の診断で入院し加療を行なった方。

2 研究課題名

急性期脳出血患者における拡散強調画像陽性脳虚血病変の研究

3 研究実施機関

当院脳卒中センター（脳神経内科＋脳神経外科）

4 本研究の意義、目的、方法

脳出血急性期では、血圧の上昇が血腫の増大を招き転帰を悪化させる可能性があり、積極的な降圧治療にて転帰が改善することが期待される。一方で、脳循環調整能が破綻した脳出血急性期では過度な降圧による脳虚血にて神経学的予後が悪化する可能性や、降圧による他臓器（特に腎臓）への障害の可能性も指摘されており、至適血圧管理に関しては長らく議論がなされてきた。本研究では、当院に急性期脳出血の診断で入院し加療を行なった方を対象として、血圧の推移と頭部 MRI での拡散強調画像陽性脳虚血病変の出現、神経症状の悪化、腎機能障害の関連を検討することにより、脳出血急性期患者の至適血圧管理を解明することを目的とする。

5 協力をお願いする内容

研究対象者において、当院で施行された全ての問診・診察の内容、採血データ（総蛋白、アルブミン、Na、K、Cl、Ca、IP、Mg、BUN、Cr、尿酸、ビリルビン、AST、ALT、LDH、ALP、 γ -GTP、CK、アミラーゼ、CRP、白血球、赤血球、血小板、血糖、HbA1c、PT、APTT、Fbg、FDP、D-ダイマー、BNP）、尿検査、心電図、頸動脈超音波検査、心臓超音波検査等の生理学的データ、頭頸部 CT、MRI 等の画像データ（同一症例において過去に複数回の検査を施行している場合は、その全てを対象とする）を収集し解析に使用させていただきます。

6 本研究の実施期間

許可日～2024 年 3 月 31 日（予定）

7 プライバシーの保護について

- 1) 本研究で取り扱う患者さんの個人情報、氏名と患者番号のみです。その他の個人情報（住所、電話番号など）は一切取り扱いません。
- 2) 本研究で取り扱う患者さんの診療情報は、個人情報をすべて削除し、第3者にはどなたのものかわからないデータ（匿名化データ）として使用します。
- 3) 患者さんの個人情報と匿名化データを結びつける情報（連結情報）は、本研究の個人情報管理者が研究終了まで厳重に管理し、研究の実施に必要な場合のみに参照します。また、研究終了時に完全に抹消します。
- 4) なお連結情報は当院内のみで管理し、他の共同研究機関等には一切公開いたしません。

8 お問い合わせ

本研究に関する質問や確認のご依頼は、下記へご連絡下さい。

東京都済生会中央病院 脳神経内科 TEL 03-3451-8211(代表)

担当氏名 大木宏一

以上